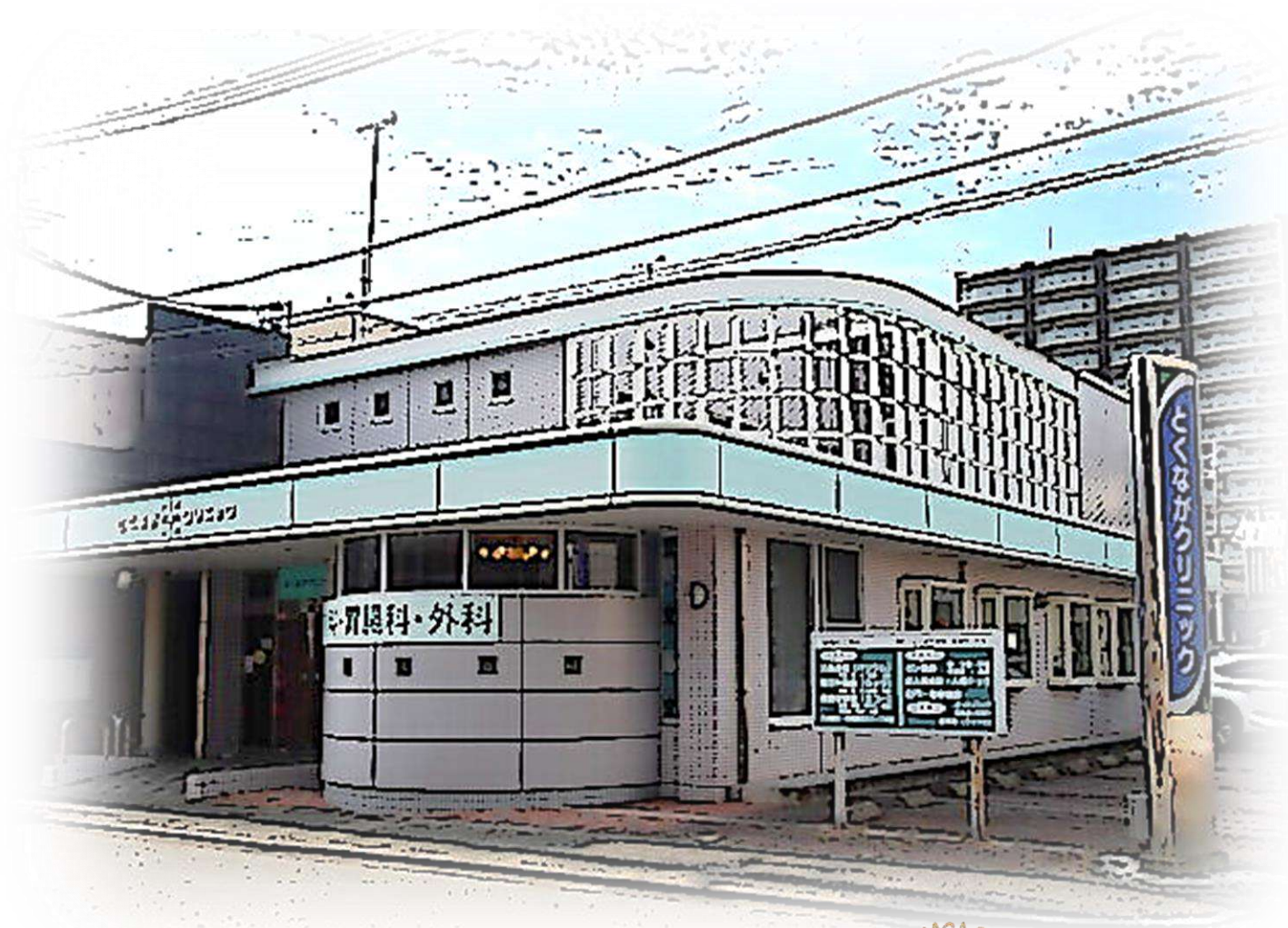


# 機能性ディスペプシア



# 機能的ディスペプシア(Functional dyspepsia : FD) とは

各検査にて症状の原因がないにも関わらず慢性的に腹痛、胃もたれなどを呈する機能的な疾患。

## 特徴的な症状

- ・ 食後のおなかがはる感じ（腹部膨満感）がある。
- ・ 少し食べるだけで満腹感がある。
- ・ みぞおちあたりの痛み（心窩部痛、胃痛）がある。
- ・ みぞおちあたりの灼熱感（あつい感じ）がある。
  
- ・ 吐き気
- ・ 胸やけ
- ・ げっぷ ※ 嘔吐を伴うことはまれ。



# 機能的ディスぺプシアに関して

- 日本人の有病率は健診受診者の11%~17%。  
上腹部症状の訴えで医療機関を受診した方の45%~53%に機能的ディスぺプシアあり。
- 日本での罹患頻度は欧米と同じくらいかやや低いくらい。
- 感染性胃腸炎後、女性、若年、不安、ライフスタイルの乱れ、などが原因の可能性がある。  
※ 他にも遺伝、幼少期の虐待などの報告があるが、一定の見解は得られていない。
- **胃不全麻痺**という似た疾患がある。  
※ 器質的な閉塞起点がないのにも関わらず胃排泄遅延をきたす疾患。  
※ 原因として糖尿病、術後胃、パーキンソン病、腎不全、薬剤性、ウイルス性感染後、特発性があげられる。  
※ 上部消化管内視鏡検査にて食物残渣を認めた場合や、胃シンチグラフィーなどの検査で診断をつける。  
※ 嘔吐を呈することが多い、ことが機能的ディスぺプシアとの鑑別点。  
※ 機能的ディスぺプシアとオーバーラップしていることも少なくない。

# 機能的ディスペプシアの診断

## RomeIV 診断基準（国際的に最もよく用いられている）で診断する

- ① 通常の検査で診断可能な、器質的、全身性、代謝性疾患がない。
- ② 6カ月以上前に下記の症状を経験し、しかもこの3か月間この症状が続いている。
  - ・ 食後の膨満感（お腹がはる感じ）
  - ・ 食事早期の満腹感
  - ・ 心窩部痛（みぞおちの痛み、胃の痛み）
  - ・ 心窩部灼熱感（みぞおち・胃の熱い感じ）

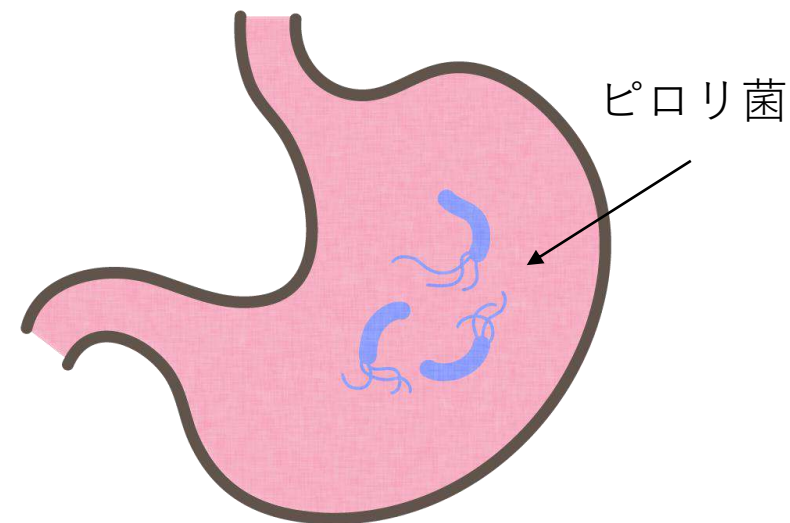
しかし、実際の症状は様々。

みぞおち・胃のあたりのおなかの症状がある場合は機能的ディスペプシアの可能性がある。  
機能的ディスペプシアを疑ったら診断的治療を行う。

# ヘリコバクターピロリ関連ディスペプシアとは

ヘリコバクターピロリ感染によってディスペプシア症状をきたす疾患。

- ✓ピロリ菌の除菌療法によって症状が軽快する。
- ✓ピロリ菌除菌後、6カ月～1年たって症状が改善した場合に診断する。
- ✓ヘリコバクターピロリ関連ディスペプシアが疑われる場合も、まずは機能性ディスペプシアと診断して治療を行う（除菌治療に並行して）。



ピロリ菌がディスペプシアの原因にもなるため、症状に対する胃カメラでの検査は必須である。

# 機能的ディスペプシアの治療

治療目標は患者さんが満足しうる症状の改善を認めること。

① **生活習慣改善、食事療法、禁煙指導**

※ 睡眠の確保、規則的な食事、野菜の摂取、高脂肪食・満腹・飲酒・コーヒー摂取を避ける。

② **胃酸分泌抑制薬**：プロトンポンプ阻害薬、H2ブロッカーなど

※ 機能的ディスペプシアに対しての保険診療は認められていない。

③ **消化管運動機能改善薬**：**アコファイド** など。

※ 消化管運動を促進させるのみでなく、調整をしてくれる。

④ **漢方薬**：**六君子湯** など。

※ 胃適応性弛緩の改善効果、胃排出促進効果、食欲亢進作用などがある。

⑤ **抗うつ薬、抗不安薬**：効果を認めることがあるが、長期にわたる有用性は不明。



# 大事なこと

---

- ✓ 機能性ディスペプシアを疑う症状がある場合は医療機関を受診する。
- ✓ 症状の原因になりうる他の疾患がないかどうか、医療機関で検査を行う。
- ✓ ピロリ菌感染をきたしている場合はピロリ関連ディスペプシアとして取り扱う。
- ✓ 規則正しい生活、適度な運動、食事内容の改善、禁煙等を行う。
- ✓ 不安やストレスの原因を解消、緩和するように心がける。
- ✓ 症状によって内服薬を使い分ける。
- ✓ 内服薬の治療効果判定は2～8週間程度で行い、症状が軽快したかどうかで判断する。
- ✓ いったん症状が落ち着いても再燃することもある。